農業の新しい技術

No. 141(平成４年３月)
分類コード　02－08
熊本県農政部

早生品種「おおいわせ」の生産技術改善

農業研究センター　茶業研究所

研究のねらい

早出し茶産地に普及している「おおいわせ」は新芽の葉色が黄緑色で茶の色沢も黄みとなる。また、水色も薄くなりやすい。これらの欠点を改善するための生産技術について検討した。

研究の成果

１．色沢の改善

(1) 被覆により茶の色沢、黄みが濃緑に改善される。

(2) 被覆期間は赤焼け病の予防を兼ねて、２月中旬から摘採日まで被覆をしたが収量は減少しなかった。

資材：カンレイシャ　＃109（シルバー、遮光率30％）

方法：トンネル掛、65日間

２．水色の改善

蒸し度を強めることにより、水色を濃くすることができる。

（蒸し機通過時間・標準蒸し35秒にたいし、50秒程度の強蒸し）

３．普及地域：早出し茶産地

普及上の留意点

早出しをねらうことから、萌芽前からの防霜対策が前提条件となる。

「おおいわせ」は、特に低温下では新芽の伸育が抑制されるので保温効果の高い被覆資材の使用により、摘採期が４～５日促進される。

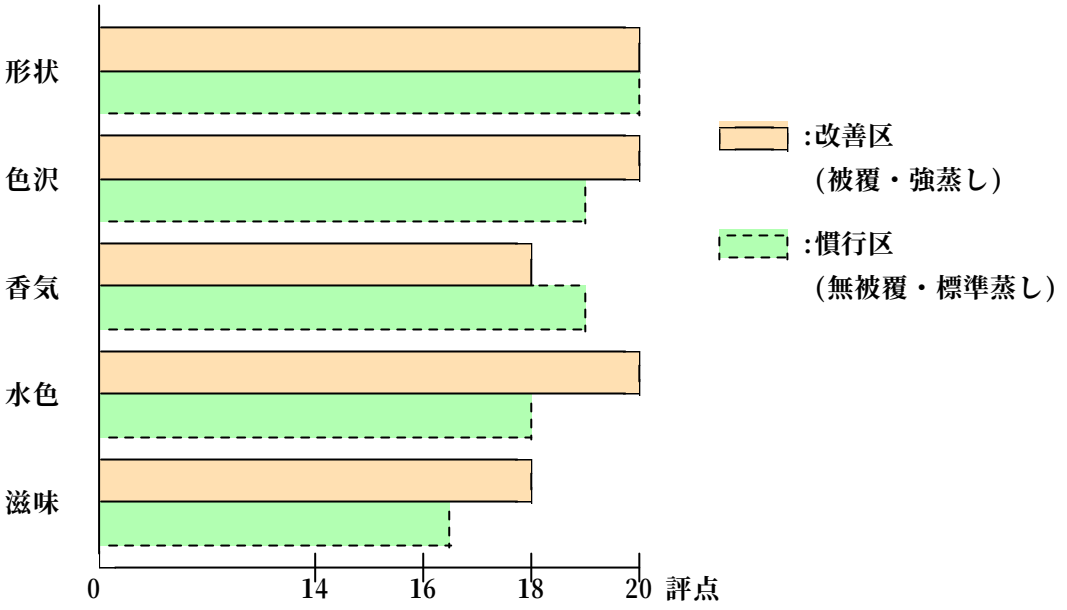

図　製茶品質（官能審査、1991年4月26日製）

写真　改善区（被覆・深蒸し)、慣行区（無被覆・標準蒸し）の茶葉